

荒川水系河川整備計画(素案)

荒川水系河川整備計画の目標(案)

荒川水系河川整備計画の目標(案)

河川整備計画の対象区間と期間(案)

- ・対象区間は荒川水系の直轄管理区間
- ・対象期間は概ね30年間

洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標(案)

- ・花立地点において、羽越水害規模の約9割の洪水を安全に流下させる。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標(案)

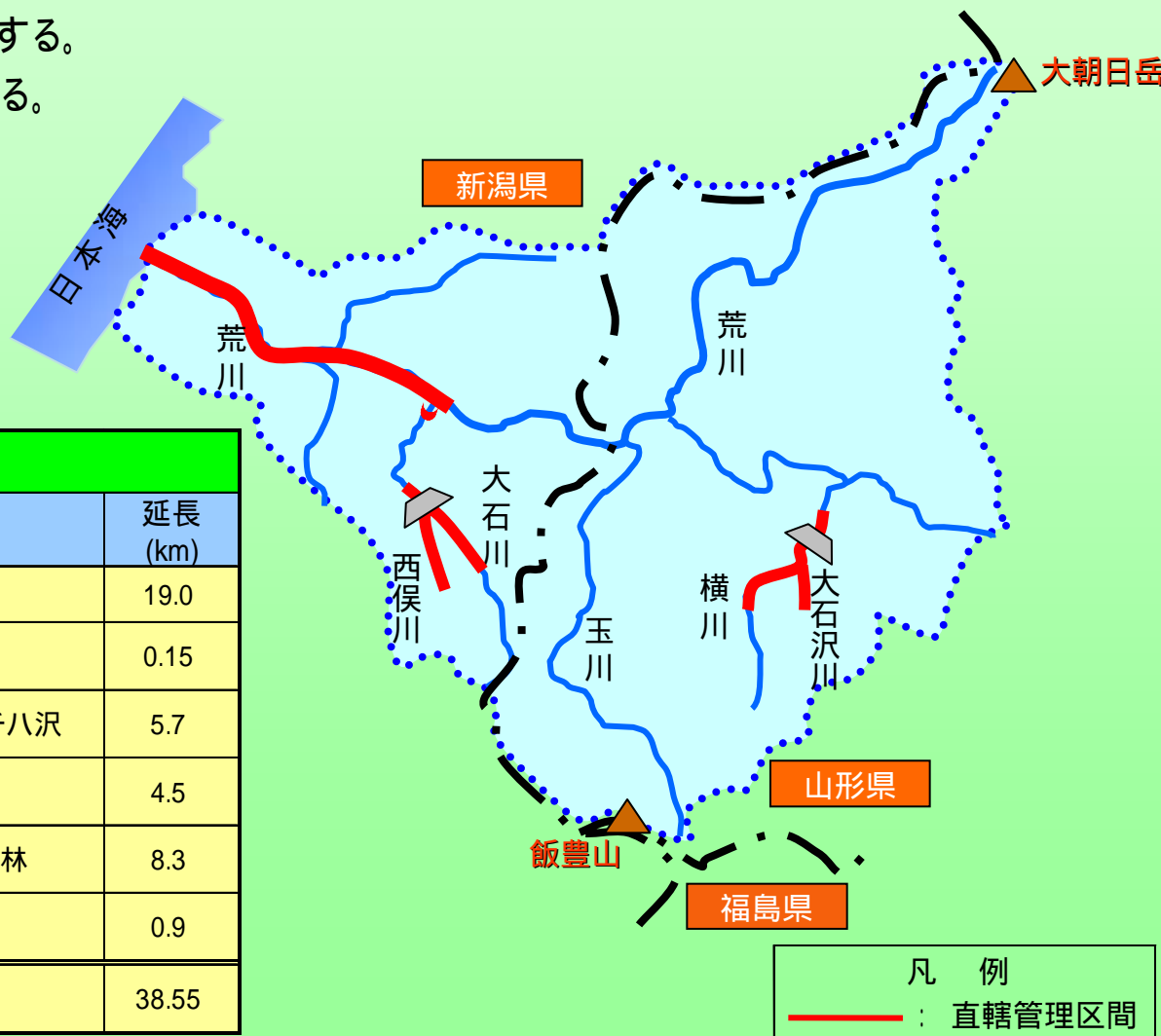
- ・花立地点において、10年に1回程度起こりうる濁水時に、概ね $6\text{ m}^3/\text{s}$ の流量を確保するとともに、更なる水環境の改善に努める。
- ・代表地点及び主要地点において水質環境基準を目標水質とする。

河川環境の整備と保全に関する目標(案)

- ・現存する多様な動植物の生態系を保全するとともに、水際環境が単調化している区間の多様性を向上させる。
- ・魚類の移動性向上を含む生息環境の改善に努める。
- ・多様な人々が川とふれあい親しめる河川空間の創造に努める。

河川整備の対象区間と期間(案)

- ◆ 対象区間は、直轄管理区間とする。
- ◆ 対象期間は、概ね30年間とする。



直轄管理区間		
河川名	区間	延長(km)
荒川	関川村下川口～河口	19.0
大石川	関川村上関(県道川口橋)～荒川合流点	0.15
大石川	関川村大字大石林道第16橋～大字大石モチ八沢	5.7
西俣川	関川村中俣川の合流点～大石川合流点	4.5
横川	小国町大手新股字河窪～大字ラツケバ国有林	8.3
大石沢川	小国町大字叶水字松籠前～横川合流点	0.9
河川計		38.55

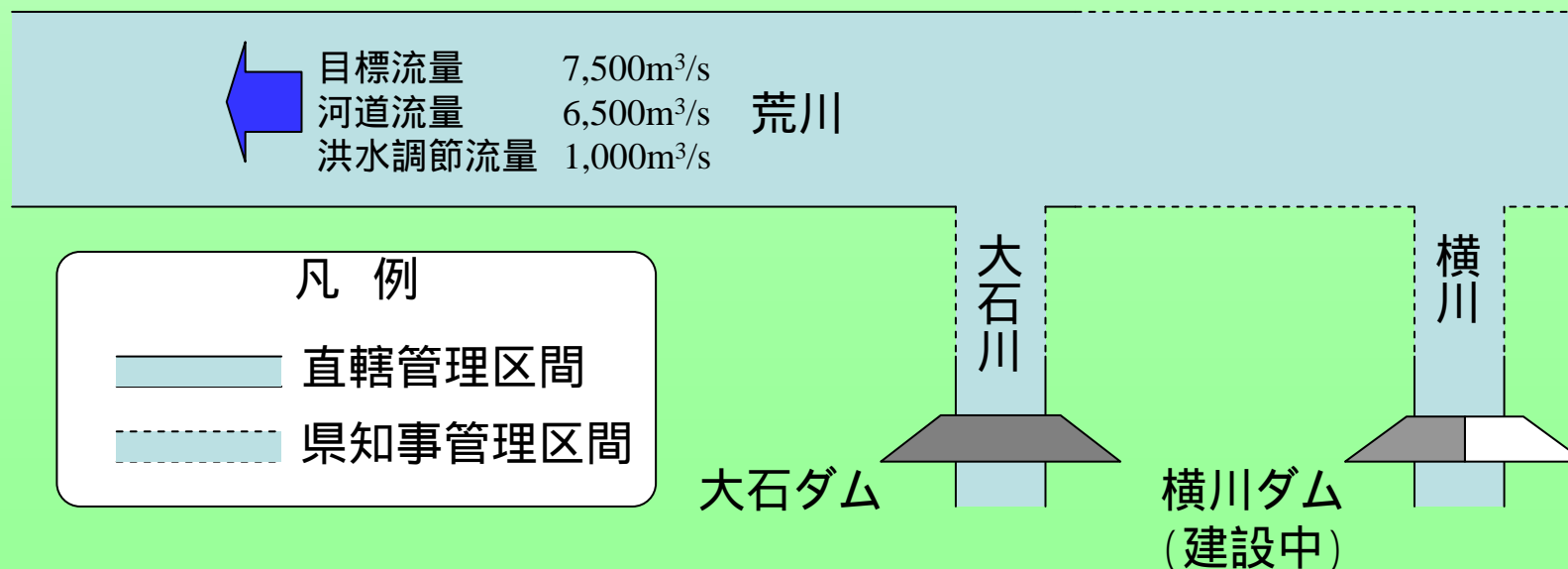
洪水等による災害の発生の 防止又は軽減に関する目標(案)

花立地点において、既往最大洪水である昭和42年羽越水害規模の約9割(7,500m³/s)の洪水を安全に流下させる整備を完了する(河道区間においては整備を完了する)。

基本高水ピーク流量 8,000m³/s (内河道6,500m³/s、調節1,500m³/s)

整備目標流量(案) 7,500m³/s (内河道6,500m³/s、調節1,000m³/s)

花立地点



河川の適正な利用及び 流水の正常な機能の維持に関する目標(案)

概ね10年に1回程度起こりうる渇水時に、花立地点で、現在概ね $5\text{m}^3/\text{s}$ となっている最小流量について、概ね $6\text{m}^3/\text{s}$ (平均)の流量を確保するとともに、貯水池の弾力運用などにより更なる水環境の改善に努める。

	現況 (1/10相当)	確保流量(案)	正常流量
流量	概ね $5\text{m}^3/\text{s}$	概ね $6\text{m}^3/\text{s}$	概ね $9\text{m}^3/\text{s}$

荒川水系のより望ましい水環境を創出するため、代表地点及び主要地点の目標水質は水質環境基準を考慮し、次のとおりとする。

河川名	水域の区分	類型	達成期間	環境基準地点名 (一般地点)	目標水質
荒川	荒川中流 (県境から旭橋まで)	A	ハ	荒川取水堰 (温泉橋) (荒川橋)	BOD $1\text{mg}/\text{リットル}$
	荒川下流 (旭橋より下流)	B	イ	旭橋	BOD $2\text{mg}/\text{リットル}$

注) 達成期間 イ: 直ちに達成 ハ: 5年を超える期間で可及的速やかに達成

河川環境の整備と保全にする目標(案)

- ◆ 現存する多様な動植物の生態系を保全するとともに、水際環境が単調化している区間の多様性を向上させる。
- ◆ 魚類の移動性向上を含む生息環境の改善に努める。
- ◆ 身近な歴史、自然などの環境学習や人々の交流拠点として利用できる空間等、より多様な利用空間の創出に努める。

単調な水辺環境



荒川の河道の変遷(荒川橋下流付近)



多様性の高い水辺環境



昭和23年当時は、大きく蛇行し、瀬や淵といったと多様性の高い形状を呈していた。

昭和42年羽越水害後の復旧によって、直線的な河道に改修したが、羽越水害からの復旧後30年余りが経過し、良好な水辺環境が形成されつつある。